

第5章 緊急消防援助隊及び 県内広域消防応援隊の受援状況



震災翌日 石巻市内で住民を救助救出する緊急隊新潟県隊
H23/3/12(土)12:17



牡鹿地区を人命検索する緊急隊北海道隊
H23/3/18(金)13:09



和歌山県隊 H23/3/13(日)10:05



北海道隊 H23/3/16(水)15:38

長面地区を人命検索する緊援隊鹿児島県隊 H23/3/20(日)10:19



鹿児島県隊 H23/3/16(水)15:27



大川小学校付近を捜索する緊援隊札幌第12次隊 H23/4/25(月)08:36



新潟県隊 H23/3/12(土)06:36



女川町内を人命検索する和歌山県隊 H23/3/15(火)17:30

第5章 緊急消防援助隊及び県内広域消防応援隊の受援状況

1 応援隊活動期間及び部隊数

(1) 緊急消防援助隊

ア 受援期間 平成23年3月12日～5月10日（60日間）

イ 受援部隊 2,531隊 延べ10,274人

都道府県別	受援日数	受援期間	延べ隊員数	延べ部隊数
新潟県隊	60日間	3月12日～5月10日	5,091人	20次隊 1,326隊
北海道隊	48日間	3月14日～4月30日	4,003人	13次隊 906隊
和歌山県隊	6日間	3月14日～3月19日	642人	2次隊 150隊
山口県隊	2日間	3月17日～3月18日	214人	1次隊 50隊
鹿児島県隊	3日間	3月18日～3月20日	324人	1次隊 99隊
計			10,274名	2,531隊

(2) 県内広域応援隊の活動状況

ア 受援期間 平成23年5月10日～5月31日（22日間）

イ 受援部隊 132隊 延べ440人

消防本部別	受援日数	受援期間	延べ隊員数	延べ部隊数
仙台市消防局	22日間	5月10日～31日	176人	66隊
大崎地域広域行政事務組合消防本部	22日間	5月10日～31日	88人	22隊
黒川地域行政事務組合消防本部	22日間	5月10日～31日	88人	22隊
登米市消防本部	13日間	5月10日～31日	52人	13隊
栗原市消防本部	9日間	5月23日～31日	36人	9隊
計			440人	132隊



2 緊急消防援助隊及び県内広域応援隊の活動状況

(1) 火災出動件数

	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	～5月末	計
緊急消防援助隊		2件	1件	1件	1件	1件	1件	30件	37件
県内広域応援消防本部								10件	10件
石巻広域消防	3件	2件			3件	4件	1件	52件	65件
合計	3件	4件	1件	1件	4件	5件	2件	92件	112件

(2) 火災出動部隊数

	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	～5月末	計
緊急消防援助隊		6隊	5隊	5隊	5隊	2隊	2隊	61隊	86隊
県内応援消防本部								29隊	29隊
石巻広域消防	7隊	3隊			3隊	12隊	3隊	185隊	213隊
合計	7隊	9隊	5隊	5隊	8隊	14隊	5隊	275隊	328隊

(3) 救助出動件数(発災以降)

	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	～5月末	計
緊急消防援助隊		1件	2件 (1)	3件 (1)	4件	4件 (2)	1件 (1)	21件 (11)	36件 (16)
県内広域応援消防本部								4件 (4)	4件 (4)
石巻広域消防	36件	34件	13件	6件	4件	6件	4件	17件	120件
合計	36件	35件	14件	8件	8件	8件	4件	27件	140件
救助人員	516名	564名	228名	65名	7名	5名	0名	6名	1,391名

※()カッコ内は、石巻広域消防と同時出動

(4) 救急出動件数(発災以降)

	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	～5月末	計
緊急消防援助隊		41件	35件	76件	70件	63件	65件	1,564件	1,914件
県内広域応援消防本部								66件	66件
石巻広域消防	19件	62件	57件	51件	37件	47件	40件	1,651件	1,964件
合計	19件	103件	92件	127件	107件	110件	105件	3,281件	3,944件
搬送人員	16名	128名	122名	160名	104名	110名	107名	3,200名	3,947名



3 緊急消防援助隊活動記録

○ 新潟県隊

震災翌早朝平成23年3月12日(土)06時
12分に先遣隊が石巻市総合運動公園に到着、以
降5月10日まで60日間にわたり活動

応援された新潟県内消防本部

新潟県隊	新潟市消防局
	新発田地域広域事務組合消防本部
	三条市消防本部
	柏崎市消防本部
	上越地域消防事務組合消防本部
	長岡市消防本部
	村上市消防本部
	糸魚川市消防本部
	佐渡市消防本部
	見附市消防本部
	小千谷市消防本部
	十日町地域消防本部
	加茂地域消防本部
	五泉市消防本部
	阿賀野市消防本部
	燕・弥彦総合事務組合消防本部
	魚沼市消防本部
南魚沼市消防本部	
阿賀町消防本部	



石巻市総合運動公園に到着した新潟県隊(新潟市消防局)
H23/3/12(土)06:12



石巻市中浦地区 石巻消防署特別救助隊 10名が津波襲来後から夜通し活動していた救助現場の応援に駆け付けた。
緊急消防援助隊新潟県隊(新潟市消防局)「H23/3/12(土)09:07



野営地の石巻市総合運動場で活動前の打ち合わせを行う新潟県隊(写真は三条市消防本部)H23/3/14(月)07:22



新潟県隊野営拠点(石巻市総合運動場)
(写真は長岡市消防本部)H23/3/14(月)06:24



石巻市門脇地区で冠水により孤立した住民を救出輸送する新潟県隊
(写真は燕・弥彦総合事務組合消防本部)H23/3/13(日)14:17



土砂と瓦礫が流れ込み困難を極めた石巻市釜谷地区の検索活動を行う新潟県隊 H23/4/14(木)09:35(写真は釧路市消防本部)



津波により多数の行方不明者が出た石巻市北上地区の搜索活動をする新潟県隊(写真は村上市消防本部)H23/3/24(木)12:57

画像提供:新潟市消防局

指揮支援隊の活動

新潟市消防局 警防課長 消防司令長 福田勇二郎

震災当日の16時00分、私は新潟県指揮支援隊長として宮城県石巻市に向け出動し、市街地に入ったのは3月12日の未明であった。最初に目に入った光景は、津波により一面浸水し、押し流された建物や車が重なった瓦礫の山であった。

石巻広域消防本部に到着し、消防長に管轄区域の被災状況と消防力の確認をした。

被害状況は、津波により、海岸線地域が壊滅状態となり、広範囲に浸水し、消防署や出張所も多大な被害を受け、消防車両は10台ほどが走行不能の状態となり、消防職員も数名が行方不明になっている。浸水、瓦礫、がけ崩れにより道路は寸断され、消防署や出張所は孤立状態になっている。救助現場や火災現場へ消防車を向かわせることもできず、電話回線は不通であり119番通報も入ってこない。被害状況の情報は、比較的被害の少なかった消防署や出張所からの無線による情報のみである。

このような状況から、消防長は、多くの市民が救助を求めている救助現場や火災現場へ消防隊を向かわせることもできないまま緊急消防援助隊の到着を心待ちにしていたと感じた。

時間経過とともに被災状況が予想以上に広域であることが明らかとなった。被災現場は、津波により浸水し一面瓦礫が堆積していたため、陸上部隊の活動は阻害要素が多く、さらに情報が殆ど無い中で、どの地区を優先するのか決断を迫られた。消防長と活動方針を協議した結果、道路や瓦礫の状況から緊急消防援助隊を確実に投入できる地区を選定し、人命救助最優先の部隊配置を決定した。日増しに増加していくことが予想される救急要請については、緊急消防援助隊の混乱を避け迅速に対応するため、石巻広域消防本部の協力を得て、救急隊をコントロールすることとした。

活動初日の12日は、日和山の海岸側で発生していた火災の対応と、石巻広域消本部の救助隊が発災当初から徹夜で救助活動を実施していた地区に部隊配置を行った。

13日以降は、自衛隊等の関係機関から道路の浸水や瓦礫の除去情報を得ることができるようになり、海岸線に近い湊地区、渡波地区から牡鹿半島方面へと順次広範囲に部隊配置を行った。

人命救助を最優先とした活動も被災から7日以降になると、捜索を加えた活動に移行した。遺体の収容活動が増え、士気の低下が心配されたが、3月2

0日に2名の生存者が発見され、無事救出に至った事案は全隊員の士気に大きく影響し、活動隊員も勇気付けられた。

重機に依らなければ瓦礫等が除去できない場所では、検索・捜索活動には限界があり、隊員は、もどかしさを感じていたのではないかと思う。

多くの小学生が犠牲になった大川小学校のある針岡、釜谷地区を最後に、活動期間は61日間に及んだ。

石巻地域に派遣された、新潟県隊、北海道隊、和歌山県隊、山口県隊、鹿児島県隊の厳しい環境の中における懸命な消火、救急、救助そして捜索活動は、これまで以上に全国消防組織の絆を強くしたと認識しており、円滑な協力体制で活動ができたことに深く感謝する。

また、石巻広域消防本部の皆さんには、ご無理を言い緊急消防援助隊が活動しやすい環境を整えていただき大変有難かった。

この活動全体を通して感じたことは、高速道路が致命的な損傷を受けず、通行可能であったこと、さらに総務省消防庁と指揮支援部隊長からの適切な指示により、各県隊が活動・野営拠点である石巻市総合運動公園に時間的なロスなく集結できたことにより、迅速な救助活動に繋がったことは、大きな利点であった。

反面、今回の災害は特に津波で浸水状態が続き、さらに瓦礫が堆積するという広域的な災害で、保有する装備や機動力の違う消防、自衛隊、警察等の防災機関が、早い段階で情報を共有し、効果的な連携活動が実施できるシステムの構築が必要であると感じた。

最後に、本震災で亡くなられた多くの皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、被災地の一日も早い復旧・復興を願っている。





津波により庁舎、自宅等が被災し、消防被服を失った隊員のために、支援をいただいた新潟県内各消防本部の被服



○ 北海道隊

平成23年3月13日(日)19時35分に石巻市総合運動公園に到着、翌日以降4月30日まで48日間にわたり活動

応援された北海道内消防本部

北海道隊 (道西)	函館市消防本部
	森町消防本部
	八雲町消防本部
	南渡島消防事務組合消防本部
	檜山広域行政組合消防本部
	渡島西部広域事務組合消防本部
北海道隊 (道南)	室蘭市消防本部
	苫小牧市消防本部
	登別市消防本部
	日高東部消防組合消防本部
	日高中部消防組合消防本部
	西胆振消防組合消防本部
	胆振東部消防組合消防本部
	白老町消防本部
日高西部消防組合消防本部	
北海道隊 (道央)	札幌市消防局
	小樽市消防本部
	千歳市消防本部
	滝川地区広域消防事務組合消防本部
	岩見沢地区消防事務組合消防本部
	夕張市消防本部
	美唄市消防本部
	歌志内市消防本部
	砂川地区広域消防組合消防本部
	芦別市消防本部
	江別市消防本部
	三笠市消防本部
	赤平市消防本部

北海道隊 (道央)	深川地区消防組合消防本部
	恵庭市消防本部
	岩内・寿都地方消防組合消防本部
	羊蹄山ろく消防組合消防本部
	北後志消防組合消防本部
	南空知消防組合消防本部
	石狩北部地区消防事務組合消防本部
北広島市消防本部	
北海道隊 (道北)	旭川市消防本部
	留萌消防組合消防本部
	上川北部消防事務組合消防本部
	稚内地区消防事務組合消防本部
	富良野広域連合消防本部
	士別地方消防事務組合消防本部
	大雪消防組合消防本部
	北留萌消防組合消防本部
	南宗谷消防組合消防本部
	上川中部消防組合消防本部
利尻礼文消防事務組合消防本部	
北海道隊 (道東)	釧路市消防本部
	北見地区消防組合消防本部
	網走地区消防組合消防本部
	根室市消防本部
	帯広市消防本部
	紋別地区消防組合消防本部
	斜里地区消防組合消防本部
	池北三町行政事務組合消防本部
	美幌・津別広域事務組合消防本部
	根室北部消防事務組合消防本部
	西十勝消防組合消防本部
	遠軽地区広域組合消防本部
	南十勝消防事務組合消防本部
	北十勝消防事務組合消防本部
	東十勝消防事務組合消防本部
釧路北部消防事務組合消防本部	
釧路東部消防組合消防本部	

石巻市総合運動場に集結した北海道隊 H23/3/16(水)15:38





石巻地区消防本部災害対策室にて活動計画を協議する緊急消防援助隊指揮隊
(札幌市消防局)H23/3/18(金)18:09



旭川市消防本部 H23/3/19(日)13:13

石巻市牡鹿地区の捜索活動を行う緊急消防援助隊北海道隊(写真は札幌市消防局) H23/3/19(日)10:03



北上川河口から10kmほど上流の堤防に打ち上げられた流木等瓦礫を除去しながら捜索活動をする北海道隊 H23/4/9(土)13:20



住宅地が津波で流され大量の土砂で堆積した石巻市釜谷地区を人海戦術で捜索する北海道隊 H23/4/25(土)14:14

画像提供: 札幌市消防局

派遣隊総員の決意・・・何とかしたい

緊急消防援助隊 第一次派遣 北海道隊長
札幌市消防局 消防司令長 富田 和廣

平成23年3月11日(金)14時46分18秒
東北地方の三陸沖を震源とするマグニチュード9.0
最大震度7の大地震が発生。

大地震の後のテレビ映像に日本中の誰もが釘付け
になったに違いない。

日本の国の中で現実起こっている、まぎれもない
恐ろしい惨状の生中継だった。

東北地方の海岸や漁港に津波が押し寄せ、家屋、
田畑が次々と津波にのみ込まれていく。

程なく緊急消防援助隊北海道隊の編成から出発日
時が決められる中、第一次派遣隊の隊長の任を受け
ることとなった。その瞬間、頭をよぎったのは「この
派遣は、過去、経験した災害とは比較にならない。
困難かつ大規模な災害にこれから向かい、予想だに
しない過酷な中で活動することになる」との思い。

顔は平然としていたと思うが、気の高ぶり(高揚
感)と同時に様々な不安を抱えながら、派遣隊員と
準備を進めたことを今でも覚えている。

翌12日に派遣隊15隊64名による札幌市長へ
の出発報告を終え、札幌～小樽～秋田～宮城までの
陸路・海路を経て長距離・時間に亘る移動の末、石
巻市の進出拠点である総合運動公園には13日夜半
に無事到着することができた。

早期の被災地到着のため、活動地域が不明のまま
出発し、「宮城県石巻市」と判明したのは翌日の秋田
港接岸の数時間前であったものの、長時間にわたる
移動を考えると先行出発の判断は適正あり、なによ
り大量投入された消防、自衛隊などの部隊を、被災
地の住民の方々が目にすることで安堵感や安心感、
そして期待感に繋がるのではないだろうか。

しかし、石巻市までの行程中、フェリー航行では
日本海の波は依然高く、特に舳先の部屋を割り当て
られた隊はその上下動により相当な苦痛を味わった
に違いない。陸に上がって安堵したのは正直な気持
ちでした。

目的地である石巻市に近づくにつれ日没となると、
市街地は停電のため真っ暗、赤色灯を点灯しながら
走行していると、闇夜に赤色が吸い込まれていく。
暗く不気味なほど静寂なこの環境の中で住民が不
自由な避難生活をしていると思うと「早く何とかし
てあげたい」と念じずにはいられませんでした。

石巻消防本部で毎朝行われる調整会議、机上の
画面上に「つば」が飛ぶほど議論が交わされる。これ

も「何とかしたい」という人命救助・救出にかける
真剣な気持ちが表れている証だ。

活動初日、災害現場までの途上も障害物を排除し
ながらの移動、さらに、被災した現地は、打ち上げ
られた船舶、転がっている危険物の屋外タンク、基
礎だけ残っている住宅跡、敷き布団のようにめくれ
あがったアスファルトなど、これまで見たことのない
惨たんたる現場。

衝撃的な光景を目の前にして、隊員たちはブロッ
ク別に分けた検索区域を「生存者の救出・救助」と
いう使命感と派遣隊員としての誇りを持って最後まで
活動し、結果、派遣期間中(7日間)に17人に
及ぶ生存者救出・救護、70人超の遺体の確認・収
容、別動していた救急隊により49人を搬送するな
ど第一次派遣隊としての役割を果たせたと思う。

しかし最終日、第二次派遣隊に引継ぎ石巻を去る
時、何かもっとできることはなかったか?やり残
したことは?などの自問を隊員誰もが頭に描いて
いたに違いない。

しかし、派遣期間中、そして今でも忘れられない
事柄がある。

- 1 石巻方面への高速道路走行中、立ち寄ったSA
「錦秋湖」での「援助隊への優先販売」の看板掲
示、救助捜索などの活動中に住民の方々からのお
礼の言葉など、色々な感謝の気持ちをいただき、
逆に我々が勇気づけられ励まされたこと。
- 2 消防庁舎、車両が甚大な被害を受け、さらに家
族、同僚の安否不明の中、地理不案内の派遣部隊
と行動を共にしながら、懸命・献身的な活動をさ
れた地元の消防職員、消防団員の方々の姿を見て、
頭の下がる思いとともに、隊員各人の奮起の原動
力となったこと。
- 3 連日に及ぶ過酷な活動と悲惨な現場に遭遇する
中、さらに決して十分とは言えない食・住の環境
において、文句ひとつ言わず業務を遂行してく
れた隊員。

など、中身の詰まった、一生記憶に残る7日間
であり、短期間でしたが、使命感ある仲間と共に活
動し、微力ながら被災地に貢献することができた
のではと思っています。

最後になりましたが、「東日本大震災」において犠
牲になられた多くの方々のご冥福と不自由な避難
生活をされている皆様にお見舞い申し上げますと
共に、1日も早い復興・復旧をご祈念申し上げます。



日 時：平成23年3月15日（火）

場 所：石巻市 湊地区

活動内容：北海道隊の救助隊（札幌市消防局）により、住宅2階に取り残された歩行不能の傷病者（84歳女性）を救出、バスケット担架で搬送

※ 緊急消防援助隊北海道隊応援活動概要

3月14日～3月17日

石巻市湊、渡波地区

中里、川口地区の救助救出活動

石巻市重吉町地区の火災防ぎょ活動支援

3月14日～4月30日

石巻管内救急出動応援

（624件出動）

3月18日～4月30日

石巻市牡鹿地区、女川町

石巻市街地、石巻市大川地区

北上地区の捜索

（救出人員17名、ご遺体収容数102体）



○ 和歌山県隊

平成23年3月13日(日)17時02分に石巻市総合運動公園に到着、翌日以降3月19日まで6日間にわたり活動

応援された和歌山県内消防本部

和歌山県隊	和歌山市消防局
	海南市消防本部
	新宮市消防本部
	田辺市消防本部
	橋本市消防本部
	御坊市消防本部
	有田市消防本部
	白浜町消防本部
	串本町消防本部
	那智勝浦町消防本部
	那賀消防組合消防本部
	紀美野町消防本部
	有田川町消防本部
	高野町消防本部
	伊都消防組合消防本部
湯浅広川消防組合消防本部	
日高広域消防事務組合消防本部	



終日女川町で検索活動をする和歌山県隊 H23/3/15(火)11:28

画像提供:和歌山市消防局

○ 山口県隊

平成23年3月16日(水)15時に石巻市総合運動公園に到着、翌日以降3月19日引き揚げまでの2日間にわたり活動

応援された山口県内消防本部

山口県隊	下関市消防局
	宇部市消防本部
	周南市消防本部
	防府市消防本部
	山口市消防本部
	柳井地区広域消防組合消防本部
	岩国地区消防組合消防本部
	萩市消防本部
	下松市消防本部
	山陽小野田市消防本部
	光地区消防組合消防本部
	長門市消防本部
	美祢市消防本部



活動初日は季節外れの雪に見舞われた
石巻市総合運動場 H23/3/17(木)08:02頃



石巻市牡鹿地区で検索活動をする山口県隊 H23/3/17(木)



石巻市牡鹿地区で活動終了後犠牲者に黙とうをさげる山口県隊 H23/3/17(木)17:05

○ 鹿児島県隊

平成23年3月17日(木) 11時40分に宮城県涌谷スタジアムに到着、翌日以降3月20日まで3日間にわたり活動

応援された鹿児島県内消防本部

鹿児島県隊	鹿児島市消防局
	大隅肝属地区消防組合消防本部
	薩摩川内市消防局
	いちき串木野市消防本部
	伊佐湧水消防組合消防本部
	出水市消防本部
	南薩地区消防組合
	霧島市消防局
	指宿地区消防組合消防本部
	阿久根地区消防組合消防本部
	垂水市消防本部
	始良市消防本部
	大隅曾於地区消防組合消防本部
	さつま町消防本部
	日置市消防本部

遠路来県された日は季節外れの雪であった。
美里町涌谷スタジアム H23/3/17(木)11:00



石巻市中里地区を検索活動する鹿児島県隊
(鹿児島市消防局)H23/3/18(金)09:48



石巻市立町地区を検索活動する鹿児島県隊
(鹿児島市消防局)H23/3/19(土)15:36



津波により広範囲に浸水した石巻市釜谷地区を検索活動する
鹿児島県隊 H23/3/20(日)10:16



ご遺体を収容する鹿児島県隊(石巻市釜谷地区)
H23/3/20(日)14:14

画像提供: 鹿児島市消防局

全国から駆けつけていただいた緊急消防援助隊の皆様へ

この度の震災で、当石巻地区広域管内は誰もが予想しなかった、夢想だにしない甚大な被害を蒙りました。

リアス式海岸を抱える半島部では、津波高20mを超える津波が押し寄せ各地区で孤立、平野部では海岸部の基幹産業である各事業所が破壊され、内陸深くまで浸水した津波が数日間にわたって帯水しました。

人的被害にあっても、管内住居者約5千人の尊い命が奪われ、今なお5百人以上の行方不明者がいます。

記録によりますと、天平9年（西暦737年）に、この地域に牡鹿柵が設置され、天平宝字3年（759年）には桃生城が設置され、大和朝廷の治世下となって1,250年の歴史の中で、当管内がこれほどの被害と犠牲をもたらした災害はありませんでした。

地震の後に襲った巨大津波の前に、我が石巻広域消防は6名の殉職者と、庁舎車両装備の流出など大きなダメージを受けながらも、「数日後には緊急消防援助隊が応援に来てくれる。」という思いで、それまでの間、出来得ることを精一杯行い、地域の負託に応えようと参集職員を含め全職員が不眠不休で、正に命懸けで闘っていました。

震災当日23時10分、宮城県災害対策本部から当消防本部警防対策本部に、「新潟県隊24隊90名が石巻市に向かった。」との連絡を受けた時、全職員に安堵と頼もしさ、そして大きな勇気を与えていただきました。

特に、新潟県隊の皆様には、震災翌日早朝から、石巻市門脇中浦地区の救助救出現場、石巻市門脇町、南浜町の大規模炎上火災現場に迅速に臨場していただきました。

後日現場の職員から、交替要員が望めないなか、10時間以上首まで水につかりながら活動して夜が明け、気力だけで立っていた状態の時に緊急消防援助隊が到着し、嬉しさとか安堵といった感情ではなく、なぜかは分からなかったが涙が止まらなかったと聞きました。

緊急消防援助隊の皆様には震災翌日から5月10日までの2か月間、延べ2,531隊（10,274名）もの応援をいただき、その後宮城県内から5月末日まで延べ132隊（440名）の応援をいただきました。

震災翌日から応援をいただきました新潟県隊、フェリーを使い13次隊まで部隊数を変えることなく投入していただきました北海道隊、生存者救出が困難となり時間との戦いそして過酷な搜索検索活動にあたっていただきました和歌山県隊、山口県隊、鹿児島県隊の皆様にお礼を申し上げます。

3月18日に鹿児島県隊の皆様が来援された際、「途中東名高速道路を通過し、富士山が見えてきたが、とにかく東へ進めという指示でここまで来ました。」と告げられ、この度の震災がどれほどの災害であったかを認識させられた忘れられない言葉であります。

今般未曾有の大震災を振り返り、当広域消防の初動体制と活動の記録をまとめましたが、緊急消防援助隊並びに県内広域応援隊の皆様のご支援があってこそ今の石巻広域消防があると、改めまして長く記憶にとどめさせていただき、深く感謝を申し上げます。



緊急消防援助隊帰任式(石巻消防署車庫前)

H23/5/10(火)新潟市消防局提供

第6章 震災を振り返って

石巻広域消防のきおく

題字 書家 吉田真紀 氏



